

別紙

日本化薬株式会社福山工場温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

日本化薬株式会社福山工場

(2) 事業所の所在地

広島県福山市箕沖町126番地

(3) 業種

1634 環式中間物・合成染料・有機顔料製造業

(4) 従業員数

259名

(5) 事業所位置図

別紙（平面図）のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成8年（1996）年度を基準とする平成28年（2016）年度から平成32年度（2020）年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1、基本的な考え方

当工場は、環境の保全を経営の重要環境問題と位置づけ、環境に配慮した事業活動に努め、環境への負荷の低減を推進することにより、持続可能な社会づくりに貢献します。

特に、今日の環境問題の中でも、とりわけ重要視されている地球温暖化防止については、自らの事業活動のみならず、当工場の製品を使用する消費者のことも考慮し、温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

2、方針

- 省エネルギー、省資源の推進
- 新エネルギーの導入
- 環境にやさしい製品の提供
- 廃棄物の排出抑制・リサイクルの推進
- グリーン購入の推進
- 環境保全活動への積極的な参加
- 従業員への環境教育の徹底

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成8年度	直近年度 平成27年度
二酸化炭素	燃料の使用	24935	25094	4960
	他人から供給された電気の使用	9251	10817	7676
合 計		34186	35911	12636

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成8年度	直近年度 平成27年度
二酸化炭素	廃油の焼却	0	1083	0
	ソーダ灰の使用	4	4	2
	廃棄物の焼却（廃プラスチック類）	203	203	0
合 計		207	1290	2

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成8年度	直近年度 平成27年度
メタン	工場廃水の処理	41	41	0
	廃油の焼却	0	0	0
	汚泥の焼却	0	0	0
一酸化二窒素	工場廃水の処理	70	70	0.4
	廃油の焼却	0	0	0
	廃棄物の焼却（廃プラスチック類）	4	4	0
	汚泥の焼却	0	49	0
HFC PFC SF ₆				
合 計		115	164	0.4

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成8年度)		削減目標		目標年度 (平成32年度)	
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)		
エネルギー起源CO ₂	35911	52.7	18911	17000		
非エネルギー起源CO ₂	1290	92.2	1190	100		
メタン	41	26.8	11	30		
一酸化二窒素	123	18.7	23	100		
フロン類	0	0		0		
総排出量	37365	53.9	20135	17230		

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位：

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	○灯油の使用量を15%削減	○廃液の個別処理により活性炭使用頻度削減によるAC再生炉稼働低減 ○蒸気ロス低減の徹底と生産における熱使用の効率化
2	電気使用量の削減	○電気の使用量を15%削減	○冷暖房温度の適正管理 ○昼休憩時の消灯の徹底 ○LED照明への変更 ○インバーター化 ○省エネ設備への機導変更 ○太陽エネルギー利用検討 ○太陽光発電設備の導入検討
3	自動車燃料使用量の削減	○ガソリンの使用量削減	○アイドリングストップの徹底 ○低公害車への買い替え促進 ○輸送効率の向上・モーダルシフト
4	廃棄物排出量の削減	○廃棄物の排出量を15%削減	○分別、資源化の徹底

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

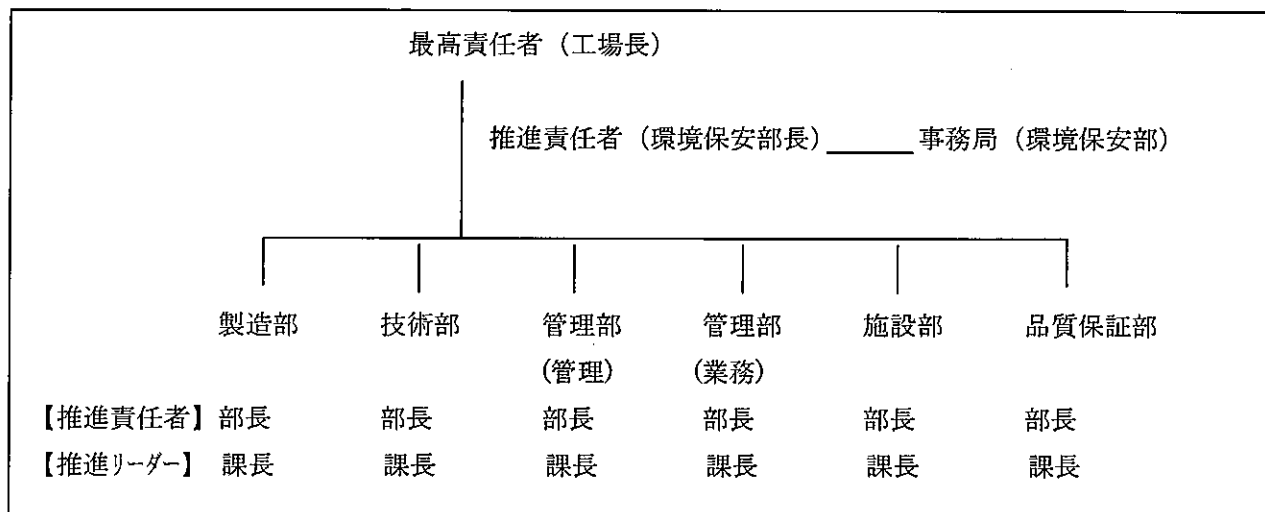
○ 環境に配慮した実践的な取組み

《記入例》

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	産業廃棄物の有効利用	○サーマルリサイクルの推進 (バイオマスの利用)	○廃パレット、廃木材の熱エネルギー利用
2	リサイクル率の向上	○リサイクル可能なものは100%再生利用	○ダンボール、紙袋、新聞紙の回収利用 ○分別、資源化の徹底
3			
4			

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

環境保安部を中心として、温室効果ガス削減計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討について、環境管理委員会や省エネPJ委員会等において各部署の取組状況や結果を定期的に評価し、継続的に取り組む。

(3) 計画の公表

工場内の管理部管理担当に、書類を備え付け公表する。